

HONTAN

図書館ボランティア「本探」が
同の図書館情報をお知らせします☺

「読書の秋」に
なりました...! 第60号



今回のテーマは
『心に響いた一言』
です!

『お嬢様の目は節穴で
ございますか?』

執事事が告げた暴言それそれの毒舌
の一言がなんと心に響きますね。
「謎解きはディナーのあとで」
東川篤哉 9/13.6/H

ま、すー

『曲がりくねることは
大事なことです。』

「人」を「川」に例えた主人公
の一言です。
「カササギたちの四季」
道尾香介 9/16.3/M

あーこ

『人は誰でも過ちを犯す。
大事なことはそのこととどう
向き合うかだ。』

主人公の思いがこもった一言です。
「鹿其鹿其の翼」
東野圭吾 9/13.6/H

悠那

『精神的に向上心のない
ものは、馬鹿だ』

くが「私」に放った一言。初めてこころ
を読んだときからこの言葉が好きです。
「こころ」
夏目漱石 9/13.6/N

かなづら

『小太郎を戦で死な
せぬためだ』

要蔵が半右衛門に言った一言
です。
「小太郎の左腕」
和田竜 9/13.6/W

EI

『どんな奴でも、どこかに
必ず、そいつに生きて欲しい
と願う人たちがいる。』

主人公の上司からの深い一言。
「鎮火報: Fire's out」
日明恩 9/13.6/T

まい

『相手のために死なないの
なら、私はその人のことを友
達とは呼ばない』

羽川翼が主人公に対して言ったセリフ。
彼らしいこの言葉思い出しました。
「傷物語」
西尾維新 9/13.6/N

さしう

『俺はプロだぜ』

あき意味心に響いた一言...
その瞬間次々と血が漏れる...
「グラスホッパー」
伊坂幸太郎 9/13.6/I

りゆう

『あなたは何も悪くあり
ませんよ。ただ、運が悪か
ただけだ。』

運という言葉で片付けられていた
「悲劇」救いにもなるはずの一言は、深
い絶望にもなる。 9/13.6/Y
「スライムを押しつぶす時」山田悠介

鶏



『花とアリス』
7/78.72/H

今月紹介するDVDは『花とアリス』です。
今作は幼なじみのハナとアリスが主人公で、春
が舞う季節に二人が争塚高校に進学するこ
ろから物語が始まります。ハナは憧れの先
輩・宮本が所属する落語研究会に入部。そんな
ある日、意外なかたちでハナにチャンスが舞い
降りました。宮本がガレージのシャッターに頭を
ぶつかって気を失ってしまったのです。意識が
もうろうとしている宮本にハナはとっさに「記憶
喪失ですよ、先輩!」と嘘をついてしまいました。

そこから嘘が嘘を呼び、ついには親友のアリスを巻き込んで、やや
こしくも奇妙な三角関係が始まったのです。

3人の思いがぐるぐると巡り、切ないような甘いような初々しい
恋物語を描いた作品です。ぜひご覧ください。



〈かなづら〉



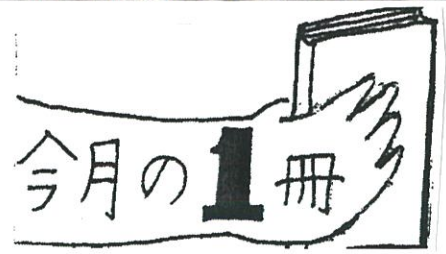
〇〇〇学生展示〇〇〇

今回から学生展示は黒
板による展示になりました。
記念すべき第1回目の新
しい学生展示のテーマは
「読もうよ! アニマルの森」
です。重カ物の写真集や、
エッセイ、小説など重カ物に
関わる本を集めました。

そして、かわいい重カ物の
赤ちゃんに癒される本や、思わず「へん
となる雑学の本など短い時間でサ
ラサラと読める本を多く展示しています。
大学の授業が始まり、忙しくて長く本を
読む時間がとれない方にもオススメ
です。ぜひ手に取ってみてください!
〈まい・かなづら〉

『メサイア：警備局特別公安五係』

高殿円 913.6/T



今月の一冊は『メサイア：警備局特別公安五係』です。『メサイア・プロジェクト』として2010年から現在までドラマCDをはじめ、コミカライズ、実写映画、ノベライズ小説、舞台、イベント、連続実写テレビドラマなど、様々な分野で活動が行われており、今回紹介する本はこれらの原案です。

舞台は架空の21世紀の日本。軍事協定であるワールドリフォーミングにより世界各国は大規模な軍縮を行ったが、それは兵器から情報へと争いの形が変わっただけだったというところから始まります。戸籍を消され誰にも救われない通称“サクラ”と呼ばれるスパイ達が、唯一助け合えるのは“メサイア”というスパイ養成学校時の相棒のみ。今作は何度死にかけても生き延びる海棠鋭利とメサイアが二度も惨殺され厄病神と呼ばれる御津見瑠がメサイアとして卒業試験に臨むが、様々な過去をめぐる困難が2人を襲うというもの。

“サクラ”の話は彼らだけではなく、後輩のサクラ候補生の話がまだまだ舞台や映画などで続いているので興味があればまずはこの本から読んでみてください。

〈鶏〉

『アヒルと鴨のコインロッカー』 伊坂幸太郎

913.6/I

もうすぐ、著作が原作となった『グラスホッパー』が映画化される伊坂幸太郎。名前は聞いたことがある、という方も多いのでは？ そんな伊坂幸太郎の持ち味は、軽快な読み口の文体と、にじみ出る青春の香り。そして、物語の最後で結びつく伏線だと私は考える。そして、伊坂の作品を初めて読みたい人にお勧めの作品は、それらすべてが一気に味わえる、「アヒルと鴨のコインロッカー」である。

ごく普通の大学生である主人公の椎名が、不思議な雰囲気をもつ隣人の河崎に「一緒に本屋を襲わないか」と誘われるところから物語が始まる。そこから始まる怒涛の日々と、2年前のとある事件。それらがいつの間にかリンクしていき、最後には点と点が線に結ばれる。ちりばめられた伏線に気が付いた時の衝撃は、圧力的だ。

多くの作品が映像化されている伊坂作品だが、この作品も例にもれず映像化されている。主演は瑛太と、伊坂作品でお馴染みの濱田岳だ。映像化が難しいと言われてきたこの作品を、うまく再現している。しかし、この「アヒルと鴨のコインロッカー」は最後のどんでん返しの魅力だ。なのでぜひ、先に原作のほうを読んでほしい。そのあとで、どのように映像化されたのか楽しむように映画を見るという順番をお勧めしたい。



〈笹那〉



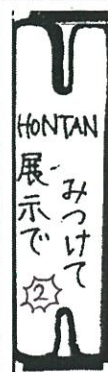
9月号のダ・ヴィンチの特集は「本と旅する、1泊2日」です!! テーマ別に北陸新幹線で巡る1泊2日の小説やマンガの旅がイドとなっています。1泊2日というところが長期休暇でなくても旅行ができるという魅力があり、これを読めば思わず旅に出たくなってしまいます! そんな素

敵な特集になっています。

さらに、「米澤穂信」特集ではインタビューだけでなく、辻村深月さんとの対談やロングインタビューなどなど。盛りだくさんの内容となっています! 個人的には辻村深月さんとの対談がとても興味深く、印象に残っています。

ぜひ、1度このダ・ヴィンチ 9月号を手にとって、パラパラとめくってみてください!!

〈しー〉



。。。帯展示。。。

こんにちは。毎度おなじみしています。白色の次に青色が大好きな「まっすー」です!

今回は何かをテーマにすることをあえて避けて、「帯の色が青(青に近いものも含む)」に焦点を当てて、選択しました。理由はどうしてもテーマにこだわってしまうと、「推し理ものが好きなのに、今は興味ないジャンルだから……」

と感じてしまうと思ったからです。

しかし、今回は! 帯の色での特集なので、ジャンルは一貫性が薄いので、気になる本があるのではないかと考えました。ぜひ、気になる帯があれば、一読してみてくださいね!

〈まっすー〉